

全医労青年部ニュース

第6号

2010年4月22日 発行：全日本国立医療労働組合 青年部

働き方を
考えよう

5月1日はメーデー

メーデーとは？

世界の労働者が毎年5月1日、要求を掲げて、団結の力と国際連帯の意思を示す日です。

メーデーのはじまり

1886年5月1日、アメリカの労働者35万人が長時間労働に反対し、「8時間労働制」を要求したゼネスト（全国的に行われるストライキのこと）を決行したのが起源です。当時は、12～14時間労働でした。労働者は、「8時間は仕事のために 8時間は休息のために 8時間は好きなことのために」と労働時間の短縮を求めて、今の「8時間労働制」ができました。

日本での第1回メーデーは90年前！！の1920年、東京・上野公園で開かれました。

8時間労働制は世界の常識

世界の常識は1日8時間以下です。ドイツやフランス、北欧諸国では残業をいれても週37～38時間ほどです。

日本では、労働基準法において、「1日8時間、週40時間」の決められていますが、9時間勤務や12時間勤務があるのは、“週40時間が守られていれば1日40時間でもいい”という変形労働時間制が優先されているためです。たとえば1日20時間働いて、週休5日でも週40時間になります。しかしこれでは十分な睡眠・食事も取れず、疲れがとれずに休みの日にはずっと寝ている・・・なんてことになってしまいます。



↑フランスのメーデー

今の労働環境は、先輩のおかげ

1960年代の国立病院は、看護師の一人夜勤が68%、夜勤回数は多い人で月15回から20回、妊娠者の3分の1が流産、100名もの患者を一人で受け持ち、急変者がでてでも医師を呼びに行けない、夜勤の連続で胃を悪くしたり、貧血で健康を害しているという労働環境でした。育児休暇や結婚休暇、8回夜勤など、今の私たちの労働環境は、先輩たちが要求し、たたかってきたからこそあるのです。

現在、二交替制夜勤が増えていますが、16時間の長時間夜勤をしているのは日本だけです。長時間労働による健康への影響や注意力低下により安全性が確保できないなど多くの問題があります。若い時は大丈夫でも働きつづけていくことを考えると、生活の充実や患者の安全を守るために、増員や休日を増し、働きやすい労働条件を作っていく必要があります。

青年にも要求があります。「賃金が安い」「患者さんのところにいけず、本当に看護師なのか悩む」など・・・。自分を守るため、患者さんの安全を守るため、私たち青年も要求を持って、メーデーを成功させましょう！

青年部の活動を教えてください！

支部や地区で色々な活動を全医労本部に寄せてください。みんなで青年部を盛り上げよう！

E-mail:zeniro@zen-iro.or.jp

2010 ダイナマイトゼンイロウ
2010年10月14日～10月16日
場所は仙台・松島！！